

平成 29 年度 自己評価結果公表シート

フレンド幼稚園

1. 本園の教育目標

のびのびいきいきした保育の中で、未来を担う、「心」・「知」・「体」を育成します。
「心」友だちから相互に学びあい、友だちと幸せを共有できる心を育てます。
「知」自分で考える知力を育成し、子どもの無限の可能性を芽吹かせます。
「体」「心」「知」の基礎になる、元気に遊べる健康な体を育てます。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

教職員が評価項目に沿って、自己評価することによって、自ら客観的に自園を見る目を養い、施設の改善、教育内容の改善等に主体的に取り組んでいくことを重点項目とする。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
教育課程の見直し	平成30年度の教育要領改訂に伴い、教育課程の見直しを行った。
英語活動を通して、英語を楽しみ国際感覚を養う。	英語が抵抗なく受け入れられるよう楽しい環境づくりに努めながら、ネイティブの外国人と親しみ、外国の事柄に興味を持ったり、外国の人と自然に交流できる力が芽生えた。
新制度への移行の検討	園として安定した教育を推進していくため、今後の園としての在り方や今後どのような形態で保育を提供すべきか、また地域の多くの方のニーズに答えられるよう積極的に協議検討を行った。
働き方の改革	教職員内に働き方プロジェクトチームを結成し、定期的に会議を行い、専門家からの助言指導を受けながら、教職員の業務負担軽減のため、年間を通して業務内容の把握と見直しを行い、園業務のICT化、簡素化、効率化等も含めて検討すると共に逐次実行する。また、教職員一人ひとりの意向や考え方が十分に反映できる環境作りに努力すると共に職場環境の更なる改善、活性化を全教職員で考え実行した。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

取り組むべき課題について、教職員が共通に理解し、各自が適切に自己点検、自己評価を行うことで、自己の課題、園としての方針を明確にすることができた。また、今年度中に目標に達しなかったところ、不十分であったところについて反省を行うと共に、今後も幼児の成長発達のよい援助ができるよう努力したいと考えている。

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
新制度への移行の準備	認定こども園に向け、教職員の共通理解を深めスムーズに移行できるよう努める。 保護者説明会等を実施し、保護者に認定こども園への移行に理解と協力を求める。 認定こども園の基準にあった設設備整備を行う
働き方改革の推進	昨年度は週1回のNo残業dayを実施。今年度は、働く環境を整えていくことで、さらに週2回のNo残業dayを目指す。働き方を見直していくことが、より良い保育へつながっていきますので、働き方改革を今年度も押し進める。
0歳～5歳の乳幼児期の発達段階に合わせた保育研究と実践計画の整備	認定こども園移行に備え、0歳から5歳の子どもの育ちを研究し、その研究内容を踏まえ、一年一年、ひと月ひと月、1週1週、1日1日の実践的保育計画を整備する。その際、PDCAサイクルを用いて、計画・実行・評価・改善を繰り返し行うことにより、よりよい教育が提供できるようにする。
安全管理と、危機管理マニュアル等の見直し、整備、共有化	地震・火災等に対して避難できるように繰り返し訓練を行い、教職員と園児の安全に対する意識を更に高める。また、園児の安全確保について全教職員が意識を強化することに今後も努め、専門講師による防犯教室・交通安全教室等を実施し、園児自身にもより意識させる。 更に、危機管理マニュアル等の各種マニュアルを見直し、整備を行い適切な対応が取れるようにする。

6. 財務状況

公認会計士監査により、適正な運営がされていると認められている。